

地域の会 質問・意見書

日付：令和5年9月17日

氏名：飯田 耕平

東京電力 HD 株式会社、経済産業省に対する に対する 質問・意見（いずれか○）

243 回定例会において、私の核汚染処理水の貯蔵タンクの質問にご回答いただきありがとうございました。

その回答の中で、「大型貯蔵タンクの場合は汚染水が漏れたら大変」という回答がありました。時間の都合で再質問は控えましたので、改めて文面で大型貯蔵タンク建造と処理水の海洋放出について質問させていただきます。

- ① 10 万トンを超える大型貯蔵タンク建造のノウハウは、石油備蓄基地、火力発電所 LNG 高圧力タンク、大型石油タンカー等の製造技術として確立されているのではないのでしょうか。従って、当日の「漏れたら大変」という返答はまともな回答とは思えません。改めて、核汚染処理水の貯蔵に大型貯蔵タンクの建造をしてこなかった理由について回答をお願いします。
- ② 今ある核汚染処理水 134 万トン を 30 年かけて海洋放出することについては大きな疑問を持っています。この 30 年間にも毎日 100 トンの汚染水が発生すると 30 年間で 110 万トンにもなり、貯蔵することになります。デブリに触れた核汚染水の処理は世界で初めてのことです。地下水がデブリに触れないように完全に遮断しなければこの問題の解決は前進しません。廃炉・汚染水・処理水対策の概要では、「2025 年以内に 100 m³/日以下に抑制する計画」とありますが、ゼロに近づけるべく新たな地下水対策を早急に進めるべきだと考えますが、国及び東電の考えをお聞かせください。
- ③ このままでは、福島県漁連をはじめ、東北の漁業関係者の不安、懐疑、不信に応えることはできません。処理水の海洋放出について「科学的根拠」を国や東電は言いますが、これまできちんと地元民と向き合ってこられたのでしょうか。大量の汚染処理水をこのまま海洋放出すること、その対策として漁業補償などの多額の賠償金でまかなうことはますます不信感を地元民、国民に与えるのではないのでしょうか。